

私見創見 Saturday

秋田市の中心街から一本路地を入ったところに、樹齢350年の銀杏の木がある。「座頭小路の銀杏」と呼ばれるその木は昔、侍に斬りつけ

られた座頭の持っていた杖が育ったものと言われており、秋田市の保存樹に指定されている。小さい頃すく近くに住

んでいた私は時折、親に叱られると、ここまで歩いて来ては「そろそろ落ち着いたかな？」と戻ることになっていた。今思うと可愛げのない子どもであった。

先日、秋田市でイベントに参加した。会場は千秋公園という城跡のすぐ近くで、お堀を見ながら懐かしい気持ちでいっぱいだった。ホテルに戻って外を見ると、この銀杏が目に入ってきた。かつての街並みからはすっかり変わっていて、最初は位置関係が分からなかったのだが、銀杏の存在で気づいて歩いてみると、昔お世話になった医院や近所の家など面影を残すものがいくつか見つかった。銀杏の元に行ってみると、確かに巨木だが、幼少期に感じた大きさとはまるで違って、40

捉え方を変ええる試み

年近い時間の経過を実感し、体はあまり変わっていないだろう。その間に私の身長は倍近くになり、いろいろなどころでたくさん経験をした。周囲もかつては住宅や低い建

物が多かったが、今では10階建て以上のマンションやホテルが立ち並び、銀杏の高さも変わって見えたのかもしれない。

小倉 和也

はちのへファミリークリニック院長



おぐら・かずなり
1972年生まれ。2010年に国内でも珍しい家庭医療の医院を八戸市で開業。国際基督教大、琉球大医学部卒。八戸市出身。

で関係が変化する面もあるだろう。一方で、関係が変化するために自分が変化することもある。さらに言えば、自分の在り方に影響を与えるその関係性そのものも、自分を形作る構成要素だという考え方もある。

在宅医療の現場でも、看取りなどに関わることは大きなストレスとなる。このようなストレスを、角度を変えて捉え直し、経験を共有しながら乗り越えていくための方法を、現在専門家の協力を得て開発している。基礎となっ

て、自分自身の在り方が作られているという考え方であり、医療そのものの根底にも影響を及ぼすものである。久しぶりに見た銀杏の木と私の関係を考えながら、そんなことに取り組んでいる。

関係の中で作られる自分

人々との関係も同じようなもの。人は成長し、また老いていき、周囲の環境や関係性も日々変化していく。親に育てられた子がいつしか親を世話するようになり、いつの日か自分も老いていく。学校では後輩が先輩になり、職場での地位も変わっていくことで、既存の人間関係が変化すると同時に新しい人間関係も生まれる。

人それぞれが変化すること、すぐに何かが解決するわ

けではないかもしれない。しかし少なくとも見方が変わることで、少し気持ちが楽になったり、出口が見えないように思われた状況に解決の糸口が生まれたりする可能性はある。

関係が変化すること、すぐに何か